

競技者・チーム関係者 各位

平成 29 年 2 月 15 日
公益財団法人日本ハンドボール協会
アンチ・ドーピング特別委員会
委員長 坂本 静 男
医事専門委員会
委員長 佐久間 克彦

2017 年 1 月 1 日からの世界アンチ・ドーピング機構
ドーピング禁止表国際基準の変更について

注意「ヒゲナミン」が禁止物質に登録

今回の変更には、主要なものとして『ベータ 2 作用薬』『興奮薬』『麻薬』の各項目に禁止薬剤の追加がありました。その中でも一般的な選手に最もかかわりのあるものが『ヒゲナミン』という物質が禁止物質として例示されました。この物質は多くの漢方薬、市販薬、栄養食品などに含まれていますので、今以上に薬、サプリメントの使用に注意して頂く必要があるため、特に注意が必要な事例として周知させていただきます。

『ヒゲナミン』という物質はベータ 2 作用薬に分類されますが、この種の薬剤は気管支喘息の時などで呼吸をするために気管支拡張薬として使用されます。またこのベータ 2 作用薬を大量に使用すると交感神経興奮やたんぱく質同化作用による筋力増強の効果が得られる場合があります。こうした理由でベータ 2 作用薬は一部の薬剤を除いて使用が禁止となっています。これまでも国内の事例において、気管支喘息の治療に用いられる『ホクナリンテープ』『ツロブテロールテープ』といった呼吸を楽にするシールや、ベータ 2 作用薬と吸入ステロイド剤との合剤の使用による違反事例が認められていますので、気管支喘息などで薬剤を使用する際には特にご留意ください。

1、市販の「のど飴」に注意

さて、『ヒゲナミン』は、呉茱萸（ゴシュユ）、附子（ブシ）、細辛（サイシン）、丁子（チヨウジ）、南天（ナンテン）という生薬に含まれています。

これらの生薬が含まれる最も身近なものには、『のど飴』があります。とくに『南天』を含むのど飴は有名ですので、使用を避けていただかねばなりません。

また『浅田飴』にはこれまでも禁止物質でありますエフェドリン（麻黄）を含んでいますので、こちらも使用禁止です。

2、サプリメントに注意

『ヒゲナミン』は植物由来の成分ですので、各種サプリメントに含まれているといわれています。これまでも勧告させていただいたようにサプリメントにはすべての成分を表示する義務がなく、どのサプリメントにこの物質が含まれているかを成分表から確認することは困難となっています。サプリメントを希望される場合には、日本アンチドーピング機構（JADA）認定商品の使用をお勧めしています。

3、漢方薬に注意

漢方薬についても、以前から『興奮薬』『ステロイド』との類似物質を含む場合が多く、使用を避けていただくようお願いしてきましたが、今回の『ヒゲナミン』の禁止物質追加により、この原則をさらに強く守ってください。上述しました呉茱萸（ゴシュユ）、附子（ブシ）、細辛（サイシン）、丁子（チョウジ）、南天（ナンテン）を含む漢方は多数存在しています。漢方薬は禁止を原則としてください。

4、病院で処方される薬剤にも『ヒゲナミン』が含まれています

『S・M 配合散』という胃腸薬が医療機関で処方されています。日本ハンドボール協会としましても代表チームの持参薬として扱っていましたが、今回の『ヒゲナミン』を含有する『丁子（チョウジ）』を含んでおり、今後の使用は控える必要があります。

処方薬についても、スポーツファーマシストや日本ハンドボール協会ドーピングホットラインなどを利用いただき、使用前に確認していただくことを原則としてください。